



## クローズアップ CLOSE UP

### 最新技術で事故抑制を

3月14日から16日まで、市役所にドライブシミュレーターを設置しました。球体スクリーンに映し出す3Dマップは、8Kカメラを用いたレーザースキャン搭載車で撮影した市内の映像を基に作成。被験者はセンサーを頭に付けて運転し、そのデータから運転時の危険行動と道路環境の関連性を調査しました。



### 夜の臨江閣を幻想的に

3月5日にKAGEE（影絵）in臨江閣を開催。18時から20時までの間に、約60人の子どもたちが参加しました。臨江閣別館の壁を大きなスクリーンにして、自分の姿を映した影を見て喜んだり、手でいろいろな形の影を作ったりして思い思いに楽しみました。



### 市議会正副議長が決定

市議会の第1回定例会を3月2日から28日まで開催。初日には正副議長を決める投票を実施し、議長に小曾根英明議員（写真左）、副議長に鈴木数成議員（写真右）が選出されました。市議会ホームページでは会議の様子を生配信するほか、過去の録画も視聴できます。



## CITY WATCHING

犬猫の殺処分ゼロを目指す犬猫生活福祉財団は1月、財団初の動物保護施設を富士見町赤城山に開設した。その初代施設長を務めるのが磯崎さんだ。

「茨城県内で10年以上と一緒にドッグトレーナーをしていましたが、財団の動物福祉向上の取り組みに賛同し、施設長に就任しました。1月から市内で単身赴任しています」

保護施設の収容能力は40頭。市保健所から殺処分の対象となる犬猫を迎え入れ、適切なケアをしながら、新しい家族を探す活動に取り組んでいる。

「一般家庭からの犬猫は受け入れていません。また、野良猫の繁殖や保護数自体を減らすため、不妊去勢の手術設備を搭載

した車両を導入しました。獣医師が各地域に移動して手術できるよう準備を進めています」

施設は施設長やトレーナー、トリマーなど職員6人で運営。開設にあたり運営ボランティアを募集したところ150人を超える応募があったという。

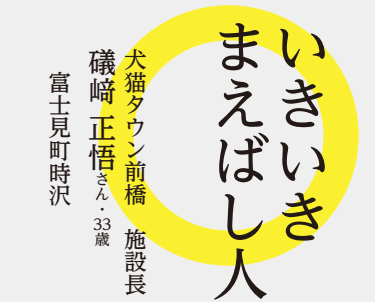
「地域のボランティアの皆さんには、動物の日常的な世話や施設の清掃、自宅での預かり、物資の運搬などで幅広く協力してもらおう予定です」

地域と一緒に犬猫に関する社会問題の解決を目指す磯崎さん。

「犬や猫を自宅に迎えたいと思っている皆さんには、ぜひ、保護犬や保護猫の選択肢も考えてほしいと思います」

（関連記事は本紙15ページ）

### 地域の動物福祉向上と殺処分ゼロを目指す



旬な農産物や生産者を紹介するこのコーナー。今回は柏川町でバラを生産・販売する企業、赤城M、Sローズです。

赤城M、Sローズでは、直径10センチを超える大輪の白い花が特徴のアバランチを中心に栽培。市場出荷と併せ、顔が見える販売として直売も実施しています。

良いバラを育てる上で重要なのは、株の管理とハウス内の環境管理です。同社では日々の細かな手入れや環境管理の自動化、データの採取・分析による栽培方法の見える化を実施。安定して質の高い大きなバラを、年間を通じて育てています。

後継者の三宅さんは「手間が掛かって難しいからこそ、やりがいがある」と語ります。三宅さんは昔から憧れていた花き栽培を志し、10年前に会社員から転身。親子承継ではないからこそその責任と覚悟



農政課  
027-898-5841



代表取締役社長の樋口修一さん(左)と  
代表取締役の三宅博和さん(右)



を持ち、社長の樋口さんにバラ作りを一から学びました。

「技術だけでなく、お客様とのつながりで地域を盛り上げるという思いも継承したい」と力強く語る三宅さん。社長の樋口さんが続けてきた、社名「M」の由来の一つ、「真心」込められたバラ作りが受け継がれています。

同社は市内でも珍しい染めバラのほか、予約制で花束にも対応しています。進学や新生活など節目を迎える人も多いこの季節。大切な人の門出に前橋産のバラで彩りを添えてみては。